

令和7年度全国学力・学習状況調査についてのお知らせ

今年度も、全国の6年生を対象に実施されました、全国学力・学習状況調査の本校の調査結果の概要をお知らせいたします。

I 教科別学習状況調査の結果

(1) 平均正答率と主な成果

	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率(%)	平均正答数	平均正答率(%)	平均正答数	平均正答率(%)
横浜市立平沼小学校	10.0/14	71.0	10.1	63.0	10.8/17	64.0
全国との差		+4.2		+4.0		+7.0
全国	9.4/14	66.8	9.3/16	58.0	9.7/17	57.1
神奈川県	9.3/14	66.0	9.4/16	59.0	9.7/17	57.0

(2) 主な成果と課題

- 「国語」「算数」「理科」3教科において、全国・神奈川県の平均よりも上回る結果となりました。
- 以下の設問においては、全国平均よりも本校の平均正答率の高さが顕著に見られました。

〈○成果〉

【国語】

問題概要 [2二]	問題文(メモ)の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する。
出題の趣旨	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
分析内容	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けるためには、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら、 <u>必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要です。</u> 全国平均正答率56.3%に対して、67.3%と上回っていました。

【算数】

問題概要 [4(4)]	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかを考える。
出題の趣旨	日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、日常生活に生かすこと。
分析内容	基準量を100%として10%や110%に当たる比較量を表したり、基準量を1として0.1や1.1に当たる比較量を表したりすることで、「10%増量」について「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにして、 <u>図と式や言葉を用いて説明し、数量の関係を捉えることができるようにすることが重要です。</u> 全国平均正答率40.9%に対して、56.7%と上回っていました。

【理科】

問題概要 [3 (4)]	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く。
出題の趣旨	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること。
分析内容	自然の事物・現象に働きかけて得た事実に基づいて、問題を見いだすことができるようにするためには、 <u>事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要です</u> 。全国平均正答率 29.9%に対して、48.1%と上回っていました。

2 今後の取り組みについて

- どの教科等においても、知識・技能を問う設問においては、全国平均を上回る結果が出ています。
- 国語科においては、「話す・聞く」の領域において課題が見られました。話し合われている内容に適した情報を選択したり、状況に応じた返答をしたりすることを日々の授業の中で意識しながら活動できるように改善していきます。
- 算数科においては、資料を読み取り計算式を立て、解を導き出すことに関しては全国平均を上回る結果が出ています。しかし、グラフや表などの数値からわかる変化を基に、言葉や数を用いて説明することに課題が見られました。自分の考えを他者に伝えるという活動を設定していきます。
- 理科においては、考察や結論に適した情報を選択肢の中から選び取ることは、全国平均を上回る結果が出ています。顕微鏡を中心とした、観察・実験に使用する器具の扱いに課題が見られました。問題を解決する過程において、一人ひとりが適切に器具を扱えるよう時間にゆとりをもって観察・実験できるようにしていきます。

3 学習習慣・生活習慣の特徴的な結果と今後の改善策について

【学習に関すること】

「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という設問に対して、86.4%の児童が、肯定的な回答をしていました。どの授業においても、自分の学習過程を振り返ることを通して、次の活動に向かう前に、または向かいながら調整をかけることを意識的に行っていると考えられます。自分で学習を進める主体的な姿が少しずつみられます。継続的に指導していきます。

【生活に関すること】

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という設問に関して、90%の児童が肯定的な回答をしていました。地域行事に参加することや、「平沼の時間（総合的な学習の時間）」の探究的な活動を通して、学習したことを地域に還元したり、地域の方々に学習を招いたりしながら、今後も「平沼のまち」を意識しながら、自分たちにできることや学習成果を発信していけるように学習活動を展開していきます。